

尚絅学園九品寺キャンパス中学・高等学校

SHOKEI GAKUEN KUHONJI CAMPUS JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

No. 04-005-2011作成

新築
学校

発注者	学校法人 尚絅学園	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB
設計・監理	株式会社奥村組西日本支社一級建築士事務所 OKUMURA CORPORATION	E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携	
施工	株式会社奥村組	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他	

緑・光・風を感じるエコキャンパス

本計画は老朽化した校舎の建替え工事で、入居者の減少した学生寮を解体した跡地（敷地南側）に中高の新校舎を建設（Ⅰ期工事）し、解体した旧校舎跡にアリーナを建設（Ⅱ期工事）する事業である。

計画に際しては、豊かな緑の保存、自然の光と風の利用、省エネルギー化などを図り、豊かな教育環境の創造を目指した。

■外部空間にゆとりを確保

キャンパス完成後の教育環境の向上および他の校舎の建替え工事用スペース確保のため、新校舎を高層化して外部空間にゆとりを持たせた。高層棟の1階には同キャンパス内の大学図書館を、2階には中高の図書館を設け相互の連携を図った。また、生徒の移動を考慮し3～6階に普通教室、7～8階に特別教室を配置した。

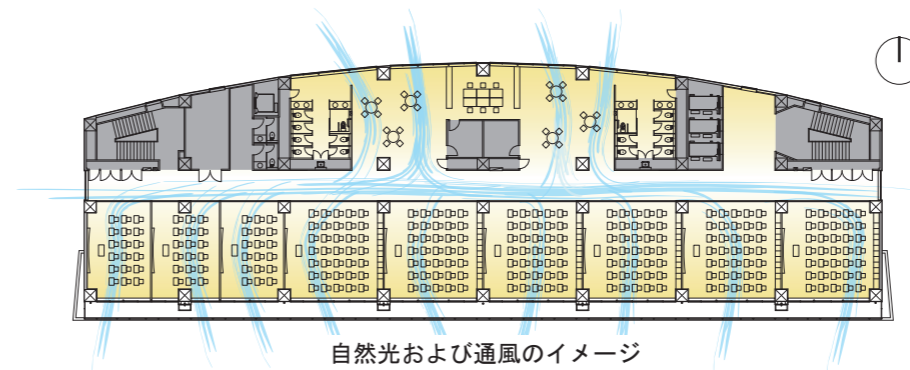
■豊かな緑の保存

キャンパス内には多数の樹木があるが、建物や工事用スペースに干渉する樹木は可能な限り移植し、これまで学園が重ねてきた歴史の記憶を残すよう努めた。



①既存樹木（クスノキ） ②既存樹木（オガタマノキ） ③既存樹木（チシャノキ） ④既存樹木（サクラ）

建物データ	所在地 熊本県熊本市	省エネルギー性能	PAL削減 33 %	CASBEE評価	Aランク BEE=1.8 2008年度版 第三者認証
竣工年	2011年				
敷地面積	29,698㎡				
延床面積	9,978㎡				
構造	RC造				
階数	地上8階				



■自然の光と風の利用

校舎の高層化に当たって、コンパクトな中廊下型の平面計画を採用した。普通教室は南側に配して採光を確保するとともに、中廊下にも十分な採光が確保できるよう教室の廊下側壁には透光性の高いパーティションを採用した。また、普通教室の南面にはバルコニーを設置し、生徒に安心感を与えるとともに夏季日射の遮へいに配慮した。7～8階の特別教室にも庇を設けることで同様の効果を狙った。

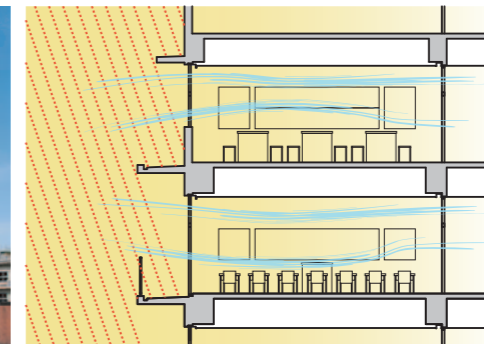
効果的に自然換気ができるよう、教室の上部および廊下側のパーティション上部に換気用の引き違い窓を設置するとともに、中廊下の端にあたる建物東西面にも換気用の窓を配した。さらに、北側に配置されている交流ロビーと廊下を一体空間とすることで、フロア全体での通風を確保した。また、東西の階段室は常時開放型の防火戸とし、上下方向の風の流れも生み出した。

■更新性への配慮

学校を取り巻く環境が変化しても容易にレイアウトを変更して長期的に対応できるように、コア部分を建物の端部に配置するとともに、乾式間仕切り工法を採用した。

■設備仕様の省エネルギー化

設備は、LEDや高効率照明器具の採用、便所等に人感センサーを設置、全熱交換器や高効率空調の採用など、省エネルギー化を図った。さらに、地域特有の豊富な地下水源を利用し、便所の洗浄には井水を利用した。



設計担当者

建築：小名川亮、篠原努、長谷川豪、綿屋康生／構造：古田英之、山田高之／設備：梅谷正彦、藤原正博

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q2. 3. 対応性・更新性（将来の更新性に配慮した構造計画）
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮（既存樹木の積極的利用）
- LR1. 1. 建物の熱負荷抑制（PAL値213.2/320（基準値）= 約67%）
- LR2. 1. 水資源保護（節水型機器の採用、井水利用）
- LR3. 2. 地球環境への配慮（南北面採光・庇による日射制御）
- Z. その他（自然採光の積極的利用）